

広島AIプロセスについて

総務省
2023年12月

G7 デジタル・技術閣僚宣言 (パラ39~48、付属書5) (2023年4月30日)

【責任あるAI とAI ガバナンスの推進】

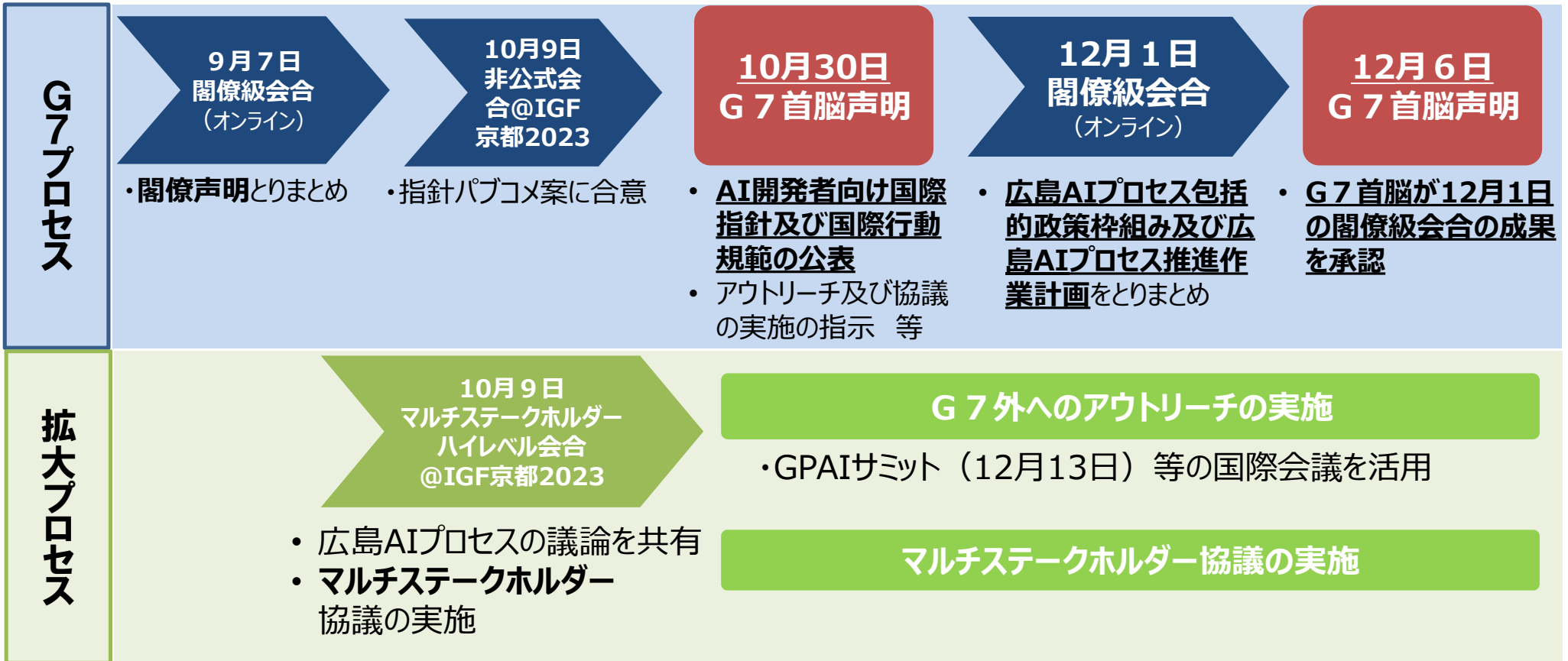
- G7は、民主主義の価値に基づく信頼できるAIという共通ビジョンを推進するため、国や地域により異なるAIガバナンス枠組み間の相互運用性を促進することの重要性を認識。
- 生成AI技術による機会と課題を早急に把握し、技術の発展に際して安全性と信頼性を促進する必要性を認識。
- 生成AIの急速な伸張の中で、OECDやGPAIなどの国際機関等も活用し、AIガバナンス、知的財産権保護、透明性確保、偽情報対策、生成AI技術の責任ある活用といったテーマについて、G7による議論の場を設置。
- 「AIガバナンスのグローバル相互運用性を促進等するためのアクションプラン」を承認。



G7 広島首脳宣言 (パラ38) (2023年5月20日)

- AIガバナンス枠組み間の相互運用性の重要性を強調。生成AIの機会と課題を早急に把握する必要性を認識し、OECDやGPAIにおける取組を奨励
- 関係閣僚に対して、生成AIに関する議論のために、包摂的な方法で、OECDやGPAIと協力しつつ、G7作業部会を通じた、広島AIプロセスを年内に創設するよう指示。この議論には、ガバナンス、知的財産権保護、透明性促進、偽情報対策、生成AI技術の責任ある活用といったテーマを含み得る。
- 「AIガバナンスのグローバル相互運用性を促進等するためのアクションプラン」を歓迎。

- 本年5月のG7広島サミットの結果を受けて、**生成AIに関する国際的なルールの検討を行うため、「広島AIプロセス」**を立ち上げ。
- 9月の「G7デジタル・技術閣僚級会合」や10月の京都IGFでの「マルチステークホルダー・ハイレベル会合」等を経て、10月30日に「**広島AIプロセスに関するG7首脳声明**」が発出。
- G7首脳からの指示を踏まえ、12月1日に「G7デジタル・技術閣僚会合」を開催し、本年の広島AIプロセスの成果として、「**広島AIプロセス包括的政策枠組み**」及び「**広島AIプロセスを前進させるための作業計画**」をとりまとめ。12月6日に発出されたG7首脳声明で**これらの成果をG7首脳が承認**。
- **上記「作業計画」に基づき「広島AIプロセス」を更に推進**。



広島AIプロセスの本年の成果とりまとめに向けた G7デジタル・技術大臣会合の結果

- 令和5年12月1日（金）、総務省、経産省及びデジタル庁共同で「G7デジタル・技術大臣会合」を開催。G7構成国・地域のほか、関係国際機関が参加。
- 広島AIプロセス（議長：鈴木総務大臣）及びDFFT（議長：河野デジタル大臣）について議論を行い、成果文書として、「広島AIプロセス G7デジタル・技術閣僚声明」及び「DFFT の具体化に関する閣僚声明」が採択。

広島AIプロセス G7デジタル・技術閣僚声明における主な成果① - 広島AIプロセス包括的政策枠組み

- ◆ 本会合の結果、本年の広島AIプロセスの成果として、「**広島AIプロセス G7デジタル・技術閣僚声明**」を採択。**生成AI等の高度なAIシステムへの対処を目的とした初の国際的枠組み**として、次の4点を内容とする「**広島AIプロセス包括的政策枠組み**」に合意。

1. 生成AIに関するG7の共通理解に向けたOECDレポート

- G7共通の優先的な課題・リスクとして、透明性、偽情報、知的財産権、プライバシーと個人情報保護、公正性、セキュリティと安全性等が例示。また、機会として、生産性向上、イノベーション促進、ヘルスケア改善、気候危機の解決への貢献等が例示。
- 広島プロセス国際指針及び国際行動規範に関する議論のインプットとして重要な役割を果たしたことを確認。

2. 全てのAI関係者向け及びAI開発者向け広島プロセス国際指針

- 「全てのAI関係者向けの国際指針」について、
 - ・ 「AI開発者向けの国際指針」（2023年10月30日公表）の11項目が高度なAIシステムの設計、開発、導入、提供及び利用に関わる全ての関係者に適宜適用し得ることを確認。
 - ・ 偽情報の拡散等のAI固有リスクに関するデジタルリテラシーの向上、脆弱性の検知への協力と情報共有等、利用者に関わる内容を12番目の項目として追加。

※ 公表済みの「AI開発者向けの国際指針」の文言は修正せず、全ての関係者向けの国際指針と並立。

3. 高度なAIシステムを開発する組織向けの広島プロセス国際行動規範

- 10月30日に公表した国際行動規範を支持する声明を発出している組織をG7として歓迎。
- 幅広い支持を得るために、より多くの組織への働きかけを継続することを確認。

4. 偽情報対策に資する研究の促進等のプロジェクトベースの協力

- OECD, GPAI及びUNESCO等が実施する「生成AI時代の信頼に関するグローバルチャレンジ」の取組を歓迎。生成AIを用いて作成される偽情報の拡散への対策に資する技術等の実証を実施。
- 設立予定のGPAI東京センターを含め各国政府や民間企業等による広島AIプロセス国際指針及び行動規範の実践をサポートするための生成AIに関するGPAIプロジェクトの実施を歓迎。（例：コンテンツの発信元の識別を可能とするコンテンツ認証・来歴管理メカニズム）

広島AIプロセス G7デジタル・技術閣僚声明における主な成果② - 広島AIプロセス推進作業計画

◆ G7として、以下の項目の「**広島AIプロセスを前進させるための作業計画**」についても合意。

1. 広島プロセス国際指針及び行動規範への賛同国増加に向けたアウトリーチ
2. 企業等による国際行動規範への支持拡大及び企業等による国際行動規範履行確保のための
モニタリングツールの導入に向けた取組の実施
3. グローバル・チャレンジやその他の潜在的な機会を通じた、OECD、GPAI、UNESCOとのプロジェクトベースの協力の継続

これらの他、以下の取組を推進。

- 関連国の政策動向及び国際行動規範にコミットする組織のリストに関する最新情報等を提供する
広島AIプロセス専用ウェブサイトの立ち上げ
- マルチステークホルダーコミュニティとの対話促進を通じた、広島AIプロセスの成果の推進
- **OECDに対して既存のAIの取組みにおいて広島AIプロセスの成果を考慮するよう奨励**
- **OECD、GPAI及び国連等の多国間の場における協調と協力の強化による広島AIプロセスの更なる前進**

- 安全、安心、信頼できるAIの実現に向けて、AIライフサイクル全体の関係者それぞれが異なる責任を持つという認識の下、12の項目を整理。
- 「AI開発者向けの広島プロセス国際指針」の11の項目が、高度なAIシステムの設計、開発、導入、提供及び利用に関わる全ての関係者に適宜適用し得るものとして整理した上で、偽情報の拡散等のAI固有リスクに関するデジタルリテラシーの向上や脆弱性の検知への協力と情報共有等、利用者に関わる内容が12番目の項目として追加。

全てのAI関係者向けの広島プロセス国際指針の12項目

1. 高度なAIシステムの市場投入前及び、高度なAIシステムの開発を通じて、AIライフサイクルにわたる**リスクを特定、評価、低減するための適切な対策**を実施する。
2. 市場投入後に**脆弱性、インシデント、悪用パターン**を特定し、**低減**する。
3. 十分な透明性の確保や説明責任の向上のため、高度なAIシステムの**能力、限界、適切・不適切な利用領域**を公表する。
4. 産業界、政府、市民社会、学术界を含む関係組織間で、**責任ある情報共有とインシデント報告**に努める。
5. リスクベースのアプローチに基づいた**AIのガバナンスとリスク管理ポリシー**を開発、実践、開示する。特に高度AIシステムの開発者向けの、**プライバシーポリシー**や**リスクの低減手法**を含む。
6. AIのライフサイクル全体にわたり、**物理的セキュリティ、サイバーセキュリティ及び内部脅威対策**を含む**強固なセキュリティ管理措置に投資し、実施**する。
7. AIが生成したコンテンツを利用者が識別できるように、**電子透かしやその他の技術等、信頼性の高いコンテンツ認証および証明メカニズム**を開発する。またその**導入が奨励**される。
8. 社会、安全、セキュリティ上の**リスクの低減のための研究を優先し、効果的な低減手法に優先的に投資**する。
9. **気候危機、健康・教育などの、世界最大の課題**に対処するため、**高度なAIシステムの開発を優先**する。
10. **国際的な技術標準の開発と採用を推進**する
11. 適切な**データ入力措置と個人情報及び知的財産の保護**を実施する。
12. **偽情報の拡散等のAI固有リスクに関するデジタルリテラシーの向上や脆弱性の検知への協力と情報共有等、高度なAIシステムの信頼でき責任ある利用を促進し、貢献**する。

我々は、信頼できる人工知能（AI）という共通のビジョンと目標を達成するためのアプローチと政策手段が、G7メンバー間で異なり得ることを認識しつつも、我々が共有する民主的価値に沿った、安全、安心で、信頼できるAIという共通のビジョンと目標を達成するために、包摂的なAIガバナンス及びAIガバナンス枠組間の相互運用性に関する国際的な議論を進めることへのコミットメントを新たにする。我々は、広島AIプロセス包括的政策枠組及び広島AIプロセスを前進させるための作業計画を始めとする2023年12月1日のG7デジタル・技術大臣会合の成果を承認する。我々は、広島AIプロセス包括的政策枠組を歓迎する。同枠組は、高度なAIシステムが我々の社会や経済に与える影響に対処するための、指針及び行動規範を含む、初の成功した国際的枠組みである。我々は、AI関係者に対して、広島プロセス国際指針及び広島プロセス国際行動規範を支持することを求める。G7日本議長下における広島AIプロセスの成果は、責任あるイノベーション及び新興技術のガバナンスを主導するために、我々が迅速に行動することができることを示すものである。我々は、関連閣僚によって策定された作業計画に沿って、広島AIプロセスを更に前進させることを期待する。

我々は、英国が主催したAI安全性サミットを歓迎し、韓国及びフランスが主催する次回のAIに関する国際会議に期待している。我々は、我々のOECD及び人工知能グローバルパートナーシップ（GPAI）との緊密な協力の重要性を再確認する。